

IV 本件放送の企画から放送までの経緯

日本テレビの報告書によれば、本件放送は概略、次のような経緯で制作・放送された。ここでは、問題となった「オセロ中島騒動」に関する部分についてのみ摘記しておく。なお、これらの作業を実質的に担ったのは、同社制作局バラエティーセンターの番組担当チーフプロデューサー、プロデューサー、総合演出ら4人の幹部制作者であり、折々に制作会社のプロデューサーやディレクターが加わっている。

(1) 2012年3月26日 本件放送の制作方針の決定

本件放送が5月4日のゴールデンタイムに編成されることが決まったことを受け、「オセロ中島騒動」を中心に、芸能人と占いの関係をテーマに展開する制作方針が立てられた。オセロ中島、I占い師に加え、かつてI占い師と同居したことがあるS占い師の3人のキャスティングが考えられたが、早い段階でオセロ中島の出演は不可能と判断。I占い師についても、仲介者を通じて接触を試みるなどしたが、はかばかしい進展はなかった。

(2) 同4月13日～16日 S占い師にスタジオ出演交渉

制作者らは2度にわたってS占い師の事務所を訪れ、スタジオ出演を依頼。以前、S占い師は他局番組にVTR出演したことがあったが、スタジオに出演して、かつての同居中の事実だけでなく、どんな気持ちだったかを率直に語ってほしい旨を説得。2度目の交渉後、事務所から出演了承の連絡を受ける。

(3) 同4月25日 日本テレビKスタジオで番組収録

S占い師がスタジオで語った内容について、総合演出は「体験者でしか語れない熱のこもったスタジオ展開になった。(中略)是非、多くの視聴者に見て頂きたいと思った」と語っている。なお、このときの収録台本には、まだQショットやサイドスーパーなどのこまかな演出手法は記されていない。

(4) 同4月26日 素材テープのチェックと編集方針の確定

総合演出がスタジオ収録の素材テープを見て、S占い師の証言を軸にした構成を立案。制作者間で検討し、I占い師は「自称占い師」、S占い師については「占い師」と呼び分けることにする。ただし、Qショットやサイドスーパーでは曖昧に「オセロ中島騒動 同居占い師」と表示することにした。「(I占い師が登場する、と)誤解を生じる人がいても、番組を見て頂くことで(中略)受け入れてもらえると考えていた」という。

(5) 同4月29日～30日 粗編集した内容をチェック

この前後、総合演出がラテ欄用の番組告知を作成。チーフプロデューサーとプロデューサーも「本編を見れば（I占い師とS占い師が）違うことがわかるはずだから、あくまでラテ欄に関しては、このぐらいまでは許容範囲ではないか」と判断・確認し、その告知用原稿を追認した。放送尺を調整しながら、素材テープを粗編集した内容をチェック。また、サイドスーパーなどにどんな文言を使い、どのタイミングで入れるかについても話し合われた。その際、この流れでは、S占い師が登場したところで視聴者からガッカリされるのではないかと、といった疑問も呈されたが、「見てもらえば大丈夫」との意見が大勢を占めた。

(6) 同5月1日～4日 編集作業・ナレーション録音・仕上げ作業

チーフプロデューサーらが白素材（Qショットやサイドスーパーなどを入れる前の粗編集をしたスタジオ収録等の映像）をチェック。その後、ナレーションを収録する一方、総合演出が作成した原稿に基づいて、Qショットやサイドスーパーを入れるなどの仕上げ作業が行われた。

(7) 同5月4日午後～夜 完成～プレビュー～放送

午後2時半、完パケVTRができ、制作局でプレビューが行われた。終了したのは放送2時間前だった。午後7時、本件放送が始まった。